

平成30年度インターンシップ実施報告 — 質の高いキャリア教育を目指して —

The 2018 SIST Internship Program:
Toward Higher Quality Career Education for students

宮地 竜郎*1, 増田 和三*2, 村上 裕二*3, 南齋 勉*4
高野 敏明*5, 奥村 哲*6, 青島 偉夫*7, 氏原 秀之*7, 渡邊 慎也*7

Tatsuro MIYAJI, Kazumi MASUDA, Yuji MURAKAMI, Ben NANZAI, Toshiaki TAKANO,
Tetsu OKUMURA, Hideo AOSHIMA, Hideyuki UJIHARA and Shinya WATANABE

Abstract: SIST internship program has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology (SIST) since 1999. This report presents how the program was prepared and organized, and the results of the internship program conducted in 2018. In 2018, a total of 136 companies in Shizuoka and Aichi prefecture engaged in this program, and provided their own internship programs available for 300 students. A total of 86 students participated in these programs. The results of this program were compared with the ones from the past 19 years, and its future prospects are suggested.

1. はじめに

本学のインターンシップは、平成11年度に試行を行い、平成12年度から授業の一貫として単位を付与して実施している。本制度も開始から19年を経過し、企業との相互理解も深まってきている。また参加学生数もこの5年間は100名を超している一方、今年度は若干の低下を示した。しかし、これは自治体や公募によるインターンシップへの参加学生が増加しているためであると考えられる。したがって、学生の参加意識は依然として高止まりしている傾向にあるといえるだろう。このように、本事業は人材育成の手段のひとつとして、本学のキャリア教育の中で重要な位置を占める事業として定着している。

本報告では、平成30年夏期に静岡理科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、実習内容、参加学生の成績評価、実習結果の総括など、各段階における経過および結果を昨年度までのデータと比較可能な形でまとめた。それにより、本事業によって得られた成果や問題点を明らかにし、来年度以降の実施に向けた改善に資することを目的としている。

特に、学生および受入企業からの報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何を得たか、また、企業による学生および実習内容の評価などを検討した。さらに平成11年度から平成30年度までの19年間のインターンシップ実施結果を総括的にまとめ、来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。

2. 平成30年度インターンシップの計画

昨年度からの申し送り事項は特になかったことから、平成29年度インターンシップにて改善した以下の事業を踏襲した。

- ① 企業側への受入希望調査を昨年同様4月に開始した。
- ② 知名度の高い実習受入企業の開拓を促進した。
- ③ 実習受け入れ企業の実習先としての適正判断、および助言教員による実習学生と企業のマッチングの適正判断を強化した。

上記施策により、適切かつ魅力的な実習受け入れ先を開拓することで、本学のインターンシップ事業の質を向上させつつ、学生の積極性の向上と意欲の喚起を図り、より高い教育効果が得られるインターンシップの実施を目指した。

3. 受入企業への協力依頼

理工系の広範囲な求人に恵まれる静岡県にあって学生自身やご家族の地元志向が強く、また「地域社会に貢献する技術者を育成する」ことを基本理念に掲げる本学におけるインターンシップでは、地元の企業や地域社会との交流推進が重要な意味を持つ。大学のインターンシップ制度は大社接続の重要な施策であるものの、ただ社会人としての一般的な素養を学ぶことよりも、学生はより具体的な就職活動の一環と捉えている傾向が強い。また協力いただく企業側も採用活動の一環として人事部門が中心となって進めていただくケースが多い。このため、企業選定には中学・高校での職場体験やインターンシップのような単純な地元密着ではなく、本学学生らが就職先として見ることができ企業であることが求められる。

2019年6月5日受理

*1 インターンシップ WG リーダー、*2 機械工学科、*3 電気電子工学科、*4 物質生命科学科、*5 コンピュータシステム学科、*6 情報デザイン学科、*7 キャリア支援課

表1 実習企業

No	会社名	実習地	実習テーマ	実習期間	日数	受入人数	実習人数
1	株式会社アーティス	浜松市中区	ホームページ制作アシスタント	9/10～9/14	5日間	1	1
2	株式会社アイゼン	浜松市南区	高精度・高品質を支える技術力・現場力を肌で感じる	9/10～9/14	5日間	1	1
3	A S T I 株式会社	浜松市南区	車載電装品又は制御機器の評価・製造工程分析	8/27～9/7	10日間	2	2
4	天方産業株式会社	浜松市中区	マイコンを使用したソフト作成, サーバーとネットワークについて	8/27～8/31	5日間	4	2
5	井上建設株式会社	富士市	建築現場での施工管理	9/10～9/14	5日間	2	1
6	株式会社イハラ製作所	浜松市北区	工作機械の設計から完成までの一貫作業の実習	8/27～9/14	10日間	2	2
7	磐田市役所	磐田市	市の行政を体験しよう	9/5～9/16	5日間	公募	3
8	エズカ工業株式会社	磐田市	中小企業のカスタムメイドの製造現場の体験	9/4～9/8	5日間	2	2
9	鹿島木材株式会社	浜松市天竜区	鹿島木材の仕事体験	8/8～8/10 8/20～8/22	6日間	2	1
10	神谷理研株式会社	浜松市東区	素材へのめつき加工実験	8/27～8/31	5日間	3	2
11	岸本工業株式会社	静岡市駿河区	金型理論, CAD演習からワイヤーカットによる成果物の製作まで	8/26～8/31	5日間	2	1
12	株式会社 KYOWA エンジニアリング・ラボラトリー	静岡市駿河区	CADモデリング体験実習/回路設計実習/ソフトウェアプログラム	9/3～9/7	5日間	6	5
13	株式会社コーリツ	磐田市	製造業における生産技術の職業体験	9/3～9/7	5日間	2	2
14	三栄ハイテックス株式会社	浜松市東区	マイコンボードを使用した音響機器の開発体験	8/27～8/31	5日間	1	1
15	株式会社三協 日の出工場	富士市	生産性を向上させるにはどうすればよいか?	9/10～9/14	5日間	5	3
16	株式会社サンテック	藤枝市	自動化装置の製作過程および基本構成の修得	9/3～9/14	10日間	2	2
17	株式会社静鉄ストア	菊川市	小売業の原点=商品を売る!!	8/27～9/2	5日間	2	2
18	株式会社榛葉鉄工所	掛川市	レーザーを使った部品加工	9/10～9/14	5日間	2	1
19	鈴与建設株式会社	静岡市	建設業を身近で感じられる職業体験	9/10～9/14	5日間	5	5
20	静和工業株式会社	静岡市	I C Tを活用した施工管理	9/3～9/7	5日間	3	1
21	第一精工株式会社静岡事業所	静岡市	車載用コネクタの設計, 品質保証	8/27～8/31	5日間	2	2
22	株式会社テクノサイト	島田市	アジャイル開発体験	8/27～8/31	5日間	1	1
23	東名電機株式会社	富士市	配電盤・制御盤の組立	9/3～9/7	5日間	4	3
24	株式会社東横イン掛川駅新幹線南口	掛川市	ホテルの顔であるフロントでのお客様対応	8/20～8/24	5日間	2	2
25	株式会社トダックス	掛川市	住空間を快適にするためのサービス業務の体験	9/3～9/7	5日間	2	1
26	戸塚建設株式会社	掛川市	建築工事現場で働く人達との交流を通して	8/27～8/31	5日間	1	1
27	株式会社ニッパ	浜松市南区	構想→実施→確認を体験する事で, 生産技術と型設計の仕事の擬似体験をしよう!	9/3～9/14	10日間	2	1
28	橋本エンジニアリング株式会社	浜松市浜北区	モノづくりの原点	8/27～8/31	5日間	4	2
29	株式会社ハマキョウレックス	袋井市	相談にて決定	9/3～9/7	5日間	3	2
30	平井工業株式会社	静岡市葵区	施工管理とは	8/1～9/30	5日間	1	1
31	袋井市役所	袋井市	受入所属により決定	8/20～8/24	5日間	3	2

32	不二機工製造株式会社	浜松市中区	機械加工工程の概要理解、品質保証に伴う検査および測定	9/3～9/14	10日間	1	1
33	株式会社藤本組	掛川市	工事現場における施工管理全般	8/30～9/7	7日間	3	1
34	株式会社ブローチ研削工業所	浜松市北区	ワイヤー放電・型彫り放電等	8/27～8/31	5日間	2	2
35	ベルファーム株式会社	菊川市	トマトの太陽光型施設栽培	9/3～9/7	5日間	1	1
36	松本印刷株式会社	榛原郡吉田町	印刷業界に興味のある方、色々な職種を体験したい方	8/20～8/24	5日間	1	1
37	株式会社マルハナ	浜松市南区	環境ビジネスの挑戦（エコ商品への意識改革）	8/23～8/29	5日間	3	2
38	矢崎化工株式会社	静岡市駿河区	ものづくりの現場改善機器の設計・製作体験等	8/23～9/14	10日間	1	1
39	矢崎総業	裾野市	自社製品の開発・評価・分析業務体験	8/27～9/7	14日間	5	1
40	ヤマハモーターエレクトロニクス株式会社	周智郡森町	車両分野および測定業務、MC実装品の組立演習	9/17～9/21	5日間	2	2
41	ユニインフォーマーション株式会社	掛川市	ソフトウェア開発プロセス	9/3～9/14	10日間	3	3
42	ユニ・チャームプロダクツ株式会社	掛川市	日用品メーカーとしてのモノ創りの魅力、こだわりを理解いただく	8/27～8/31	5日間	3	2
43	株式会社ユニテック	静岡市葵区	SE・プログラマーの基礎	9/3～9/13	8日間	2	2
44	株式会社リンク・アンビジョン	静岡市葵区	人材系ベンチャー企業でのインターン採用の現場を肌で感じるキャリアコンサルタントのアシスタント業務	9/3～9/7	5日間	2	2
45	リンナイテクニカ株式会社	掛川市	製造設備導入における設置から運転までの問題点・課題対応 工程管理手法の基本を学び、現場作業の改善を実施	9/10～9/14	5日間	2	2
46	株式会社ワイケーデザインリンク	島田市	自動車用メータのベンチマーク、CATIA V5 操作体験、メータ点灯基盤作製	9/3～9/7	5日間	3	3
47	株式会社若杉組	掛川市	実際の施工現場での状況	8/20～8/24	5日間	3	2

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	学年		大学院	計
	2	3		
機械工学科	4	16	0	20
電気電子工学科	0	19	0	19
物質生命科学科	0	7	0	7
建築学科	14	0	0	14
コンピュータシステム学科	1	16	0	17
情報デザイン学科	1	8	0	9
計	20	66	0	86

表3 実習企業地域別内訳

地区	事業所数	地区	事業所数
浜松市	13	裾野市	1
静岡市	9	藤枝市	1
掛川市	9	森町	1
磐田市	3	吉田町	1
富士市	3		
島田市	2		
袋井市	2		
菊川市	2		

表4 インターンシップ事前研修会、報告会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	報告会
機械工学科	47	29	20	18
電気電子工学科	41	19	19	14
物質生命科学科	35	9	9	3
建築学科	52	13	13	11
コンピュータシステム学科	51	28	20	17
情報デザイン学科	29	16	12	6
計	255	114	93	69

このような背景のもと、例年同様に、就職実績やインターンシップ受け入れ実績、および直近の依頼に対する返答状況などを鑑みて依頼先を精査し、結果的に4月に420社に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。その結果、平成30年度においては、136事業所・310名分(昨年度は114社230名分)の実習テーマ受入申し込みがあった。受け入れ分野は、機械設計、開発、生産、機械加工、試作、もの作り、検査・測定・実験、電気・電子分野関係、物質科学・環境関係、建築・建設関係、情報関係、農業関係、公官庁(市役所)等、専門分野を軸に公務員志望や周辺分野などまで含んだ広範囲な分野構成となった。とくに2017年度から学生を受け入れ始めた建築学科は最高学年が2年生ではあるが、メンターゲットの3年生から1年先行する形で依頼したところ建築・建設関係で38社からの受け入れを獲得できた。

2018年春採用の就職活動が強い売り手市場となり、多くの企業で採用計画未達となる中で、ひと頃の青田買いや1次選抜を兼ねたようなインターンシップは鳴りを潜めたものの、企業での新卒採用においてインターンシップの重要性は高まっている。しかしそれが本学実施のインターンシップに直結しているわけではなく、各社独自のインターンシップを、リクナビ・マイナビなどや自社ホームページで募集しての実施しているケースも多い。自社単独のインターンシップ募集ですでに高倍率になっている企業からも1,2名分の本学枠をいただいているケースもいくつかある。

本学のインターンシップは1単位の付与を前提としているため5日かそれ以上の勤務(実習)が前提となる。しかし一方で1,2週間のインターンシップは受け入れ企業側の負担が最も大きいといわれている。また経団連も2015年改訂の『「採用選考に関する指針」の手引き』ではインターンシップについて5日間以上を原則とすることを掲げていたが、2017年改訂では5日間以上という制約を外し、「インターンシップ本来の趣旨を踏まえ、教育的効果が乏しく、企業の広報活動や、その後の選考活動につながるような1日限りのプログラムは実施しない。」という制約を残すのみとなった。この変更の影響もあり、おもに修士1年や学部3年生を対象とする夏期のインターンシップでは、1dayインターンシップや、制約回避となる2-3日間のインターンシップを実施して、より少ない労力で多くの学生受け入れを図っているようである。この流れは本学で単位付与できるインターンシップとは合致しないため、各社独自のインターンシップに対しては学生個人による自由応募を促すのみとしている。

4. 参加学生募集と派遣企業の決定

履修ガイダンスや一部の必修講義の合間などを利用して主に3年生に対してインターンシップ実習への参加と、そのために必須となる事前研修参加を促した。その際、事前研修、報告書の提出と報告会および事後研修全てに参加しなくては単位の取得ができないことを告知した。4月中旬に行った初回の事前研修で概要を説明したあと、受け入れ各社の実習内容リストを提示してネット経由で第3希望までを募集し、希望が集中して実習定員を上回った場合には専門性を配慮しつつ主に成績順に割り振った。その後なお空いている枠を提示し募集を続け派遣先企業を決定していった。この際、学生の通勤の可能性についても検討し、特に通勤の時間がかかりそうな学生については個別に確認を行った。3年生の春という段階で多くの学生は就職に関するビジョンがほとんどない状況であり、しかも卒業生進路企業各社についてほと

んど知識がない。専門の学習段階としても着手したばかりで、産業の連携や棲み分けも見えていないので静岡の製造業にありがちなBtoBの製品群についてイメージが湧きにくい。結果として残念ながら社名リストや簡単な説明を聞いた程度で興味を持てる会社が少なく、一部の有名企業やその関連企業、および学内で特に評価が高い企業などに人気集中し、あとは自宅からの通勤のしやすさと会社の格を考慮しての選択となったようである。

募集、調整の結果として表1に示す47社(昨年度は62社)に86名(同102名)の学生を派遣することとなった。その学科・学年構成については表2に示す。その地域構成については表3に示す。ほとんどの受け入れ企業の実習期間中に自宅から通勤することを前提としているため、本学の学生の自宅分布に近い。一部の地域の学生にとっては選択肢が限られる状況だったようである。特に豊橋市や豊川市など愛知県の東三河地域から通学している学生にはよい選択肢を提示できていないようである。建築学科2年生の14名を加えても昨年度から16人減となったのは、物質生命科学科の減少の影響が大きいが顕著な原因は見当たらない。やる気も成績も上位の学生にとっては、就職先となるような企業の募集はあるものの枠が限られていて希望しているような会社でのインターンシップを受けることができず、一部は視野を広げることなく断念し、一部は自由応募に流れている。一方やる気も成績も中位や下位の学生には比較的豊富で現実的な就職先としての選択肢と枠が用意されているが、より企業知名度が低く動機付けが難しいため枠を余らせる結果となった。本来であれば学生自身の希望と企業とのマッチングが取れないまま就活で苦戦するこの層こそ広くインターンシップ制度を活用してほしいところであり、今後検討が必要ではないかと思われる。最終的に310名分の枠を86名分しか活用できなかった。

5. 事前教育について

1単位を付与する講義でもあり、また逆に大学の講義の1つという軽い気持ちで経験の浅い学生をそのまま企業に送り込むには懸念されることも多いため、インターンシップ参加希望者には4月17日の第1回の事前研修をはじめとして、全3回の事前研修を実施した。第1回事前研修ではインターンシップの概要、履修方法のほか、心構えや先輩体験報告を行った。その後約1ヶ月程度をかけて前述のように学生希望に基づいて派遣先の企業を決定した。続いて第2回事前研修では、企業についてや、提出書類の説明を行い、第3回事前研修で実習にあたっての諸注意(マナー教育)と報告書類等提出物について確認した。本実習には事前研修と報告会にすべて参加することを義務づけてはいるが、各講義を録画しておいてやむを得ず欠席することになった学生は、それを視聴することで出席の代わりとできるようにしてある。表4に事前研修各回の出席者数を示す。初回は255名(昨年度は245名)の学生が出席したが第2回で半分以下になっている。これは例年どおりの傾向で、第1回後に派遣先を決定し、86名の派遣が決定されたため、選外となった実習応募を取りやめた学生らが出席しなくなったことによる。第1回事前研修参加者中の実習参加率は33.7%(昨年度は41.6%)となり、第1回事前研修参加者は昨年度と比べて10名増加したものの、実習参加率は昨年度から約8%、参加人数は昨年度から16名減少した。それでも第2,3回の参加者数が86名を超えて出席しているのは、自由応募でのインターンシップや、その他今後の就職活動に役立てるため、単位取得できないことを承知で

参加している学生が含まれている。逆に報告会の参加者数が派遣人数を下回るのには実習には参加したいが単位は取れないという学生がいることが影響している。

6. 受入企業数と参加学生数の推移

インターンシップの実習を行うにあたって、まず本学と実習生受入企業との間で“覚え書き”を作成した。これは双方の義務や責任を明らかにするとともに、万一の場合に備えて、実習生の受入に関して大学および企業の双方が遵守すべき事項を確認するためであり、双方が署名捺印した。

また学生は実習に先立って、参加申込書の提出時に助言教員の承認をうけることになっている。これは本学教員への連絡だけでなく、学生が自から参加の意思を示すことで、キャリア教育への参加の機会を増やすためでもある。インターンシップ実習は、8月1日から9月30日までの本学の夏期休業期間中に各企業において行われ、滞り無く終了することができた。各事業所における実習期間中は、インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として、受入れ企業に担当教員が出向き、実習受入担当者と面談を行った。

本年度に各受入企業等において実施されたインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表5に示す。また、本学でインターンシップを実施した10年間の受入企業数、実際に実習を実施した企業の数、募集学生数、参加学生数、単位取得学生数の変化を図1に示す。今年度の受入れ事業所数、募集人数はそれぞれ136事業所、300名でこれまでで最高であったが、実施事業所数・募集実習生数・参加学生数は昨年と同様に、前年度比で10%強減少しており、平成24年度の水準まで落ち込んでいる。これは、働き手不足による事業所と学生の意識の変化によるものと考えられる。しかし、依然として就職がなかなか決まらない学生の数は多いことから、学生には「売り手市場」を勘違いせず、早期から業種研究や企業研究のためにインターンシップを生かすよう啓蒙する必要がある。

図2に10年間の参加学生の学科別内訳の推移を示す。10年間の参加学生の累計は950名となった。本年度の特徴として、昨年と同数の電気電子工学科を除いて、軒並み参加者数が減少しており、物質生命科学科の減少が最も顕著であることが挙げられる。新たに設置された建築学科の学生が初めて参加したにもかかわらず、全体参加者数は減少している。

表5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

<p>【機械設計・開発などの分野】 3DCADによる設計。産業用機械器具の設計・製作・メンテナンス。機械制御装置の設計・試作・販売。試作機の性能確認。自動化・省力化装置及び各種検査装置等の設計・製作。物流改善機器・福祉介護機器・プラスチック製品・自動車内装部品の開発・生産から販売。輸送用機器部品製造と光技術応用製品の開発・製造・販売。</p>	<p>【物質科学関係の開発・実験などの分野】 発酵技術を駆使した医薬中間体・原薬の製造。農業(モモ、ブドウ、キウイ)・ジャム製造販売・農業教育。化粧品製造・研究から生産まで一貫した体制での作り。CMO企業の仕事。トマトの大規模施設栽培</p>
<p>【生産・機械加工・試作・もの作りなどの分野】 自動車・オートバイ用クラッチ・製造。物づくりの基本となる金型作りを最新の設備と職人の技と若手技術者が一体となった物づくり。自動車・オートバイ・農業機械等の精密機能部品製造。銑鉄鋳物製造(プレス金型用、工作機械・産業機械用鋳物製造)。自動車輸送用機器部品製造販売。二輪用マフラー製造。各種プラスチック生計加工品の製造。二輪車・四輪車・汎用機械用エンジン部品及び車体部品の製造。</p>	<p>【情報関係などの分野】 ウェブサイトの構築と運営・ICTソリューションの提供・インターネットを利用したメディア事業・ウェブシステムの研究開発及び提供・インターネット通販事業。コンテンツ(映像系・Web系)制作・ITシステム構築。物流・商流・航空など幅広いシステム開発やデータセンター・ネットワークサービス。お客様にトータルソリューションを提供するシステムインテグレーター。携帯電話無線基地局の保守点検。エリア品質保証調査</p>
<p>【検査・測定・実験などの分野】 空調和設備(温度・湿度・空気清浄度などの室内環境の調整)。電気・電子・機械・情報通信のシステム機器と部品取扱い。木工用塗料の検査および塗装。化粧製品の品質検査</p>	<p>【企業経営・管理などの分野】 スーパーマーケットにおける業務。ビルマンション総合管理。自動車の買取・販売。ホテルにおける業務。農産物を生産から販売する地域資源プロデュース業務。自動車ディーラー。ホテルフロント接客業務</p>
<p>【電気・電子関係の開発・実験などの分野】 プリント基板、パターン設計、マイコンボードを使用した音響機器開発、車載電装品・ホームエレクトロニクス・情報通信機器・制御機器等の製造・販売。自動車用コネクタの開発・生産。生産工場の設備(自動制御装置)の設計・製作・施行。輸送機器などの電装部品の開発・製造・販売。電気・通信機器や放送用機器などの多様な製品のLSI設計ソフトウェアの開発・ハードウェアECO製品の設計開発・製造。配電盤・制御盤の設計・製造精密自動車部品・精密家電部品の製造・計測器・ロボットシステムの開発・製作。電気設備工事の施工管理。</p>	<p>【建築業関係分野】 建設現場での施工管理。ICTを活用した施工管理。住空間を快適にするサービス。計測作業。ドローンによる空撮測量</p> <p>【自治体・団体活動などの分野】 地方行政事務。地方公共団体事務。公共文化施設における業務。</p>

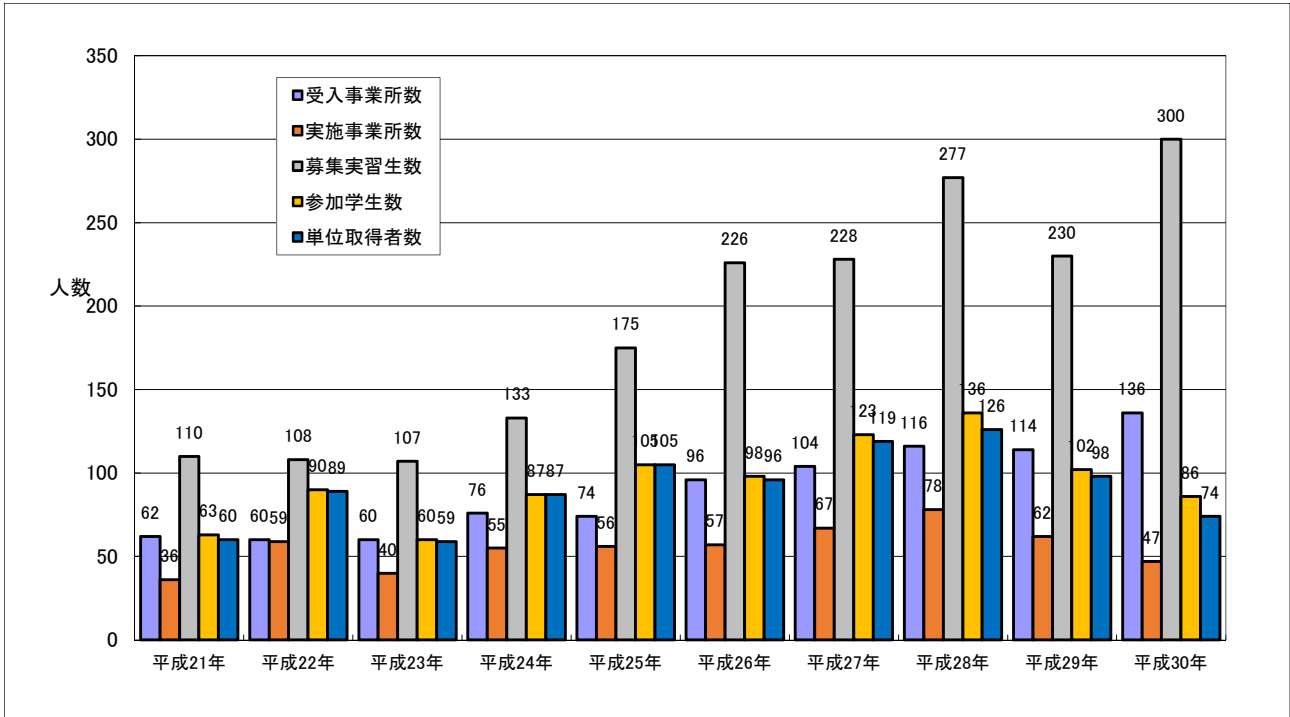


図1 受入企業等の数および参加学生数(10年間の変化)

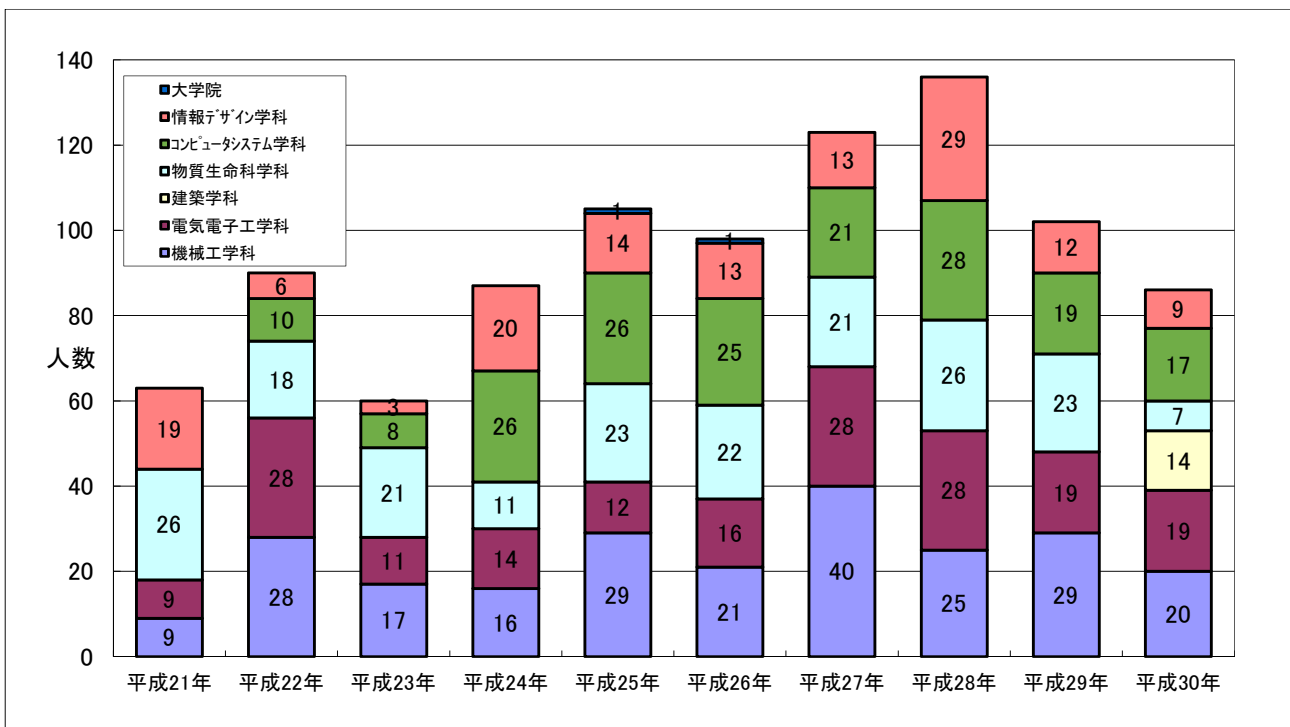


図2 参加学生数の内訳 (10年間の変化)

7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、学生の実習報告に基づいて、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省などについてまとめた結果を報告する。

7.1 実習内容

学生が実際に行った業務内容の詳細を事項別にまとめ、よく行われていた主要な業務内容を図3に示す。1位は「製作、組立、加工」の24.5%であり昨年度より2.9ポイント増大している。2位には建築学科の学生参加の影響で「CAD、画面設計、画像処理」が入り、17.8%と大幅に増大している。3位「ソフトウェア開発、HP作成」13.7%、4位「実験、測定、試験、分析」12.3%で、こちらも増加している。これに対し、5位の「営業、接客、販売」6.8%は昨年度の20.6%から大幅に減少している。

7.2 実習によって得られた成果

「実習の成果」についてまとめたものが図4である。1位と2位は昨年同様「企業や職場の雰囲気がわかった」29.7%、「企業の現場を見ることができた」19.2%であり、依然として半数を占めていることから、学生にとって「働く場所」のイメージを膨らませる貴重な経験になっている。それに加えて、3位には「人との付き合い方、会話の重要性」18.3%が入ってきており、「おとなしい」印象が強い静岡理工科大学生にとって、気づきの重要な機会となっていることが伺える。

7.3 実習に関する感想

「実習に関する感想」についてまとめたものが図5である。1位と2位は昨年同様「貴重な体験ができた」24.7%と「経験を生かして自分の進路を決めたい」は18.3%で割合としても大きな変化はなかった。今回も経験を生かし今後につなげる目的は達成されたと考えられる。3位、4位には「製品を作ることの大変さを実感した」12.8%と「実習期間は充実していて短く感じた」12.3%がそれぞれ入ってきており、昨年3位の「実習担当者の助言がためになった」11.4%を上回ってきていることから、これまで同様に受入側の配慮に加えて、年数を重ねることによる実習内容の洗練が進んでいるように感じ

る。しかし、昨年よりは、ともに2ポイント以上上昇しているものの「問題点の解決が面白かった」5.9%、「仕事の楽しさがわかった」5.5%とこれら項目は依然低迷していることから、参加者側もさらに高い意識をもって積極的にインターンシップに臨む必要がある。

インターンシップは、現実の厳しさを知り、自分の進路を決めるためのトリガを与える貴重な機会を提供しており、重要な実習の一つであると思われる。今後は「売り手市場」を安易に考えがちな学生を積極的にインターンシップに参加させる方策を検討していく必要がある。仕事の楽しさ、やりがいを感じるに至っていない点が懸念され、事業所と学生の希望のミスマッチも散見されたことから、事前の説明と業種研究の徹底を図り、インターンシップ期間内に達成感を感じられるような取り組みを検討する必要がある。

7.4 実習に関する反省

実習に関する反省として記載された事項を整理したものを図6に示す。1位から3位までの「基本的、応用的な知識が足りなかった」22.6%、「もっと質問するべきだった」20.7%、「うまく話や説明ができなかった」18.4%は、昨年度とほぼ変化がなく、本学学生の課題であるコミュニケーション能力や学力不足が浮き彫りになっている。特に「うまく話や説明ができなかった」、「もっと質問するべきだった」という点は常日頃からのトレーニングが重要であるので、アクティブラーニング型の授業でのトレーニングやキャリア関連科目での重点的なトレーニングが必要と考えられる。

また、「基本的、応用的な知識が足りなかった」という点に関しては、基礎学力のベースアップは当然のことながら、事前準備としてインターンシップ先の業種、分野に関する事前調査をより推進する施策が必要であると感ぜられる。4位の「集中力が途切れてしまった」15.2%は、一昨年から1ポイントずつ徐々に増加しており、短期集中のインターンシップに参加する姿勢について、改めて注意が必要である。

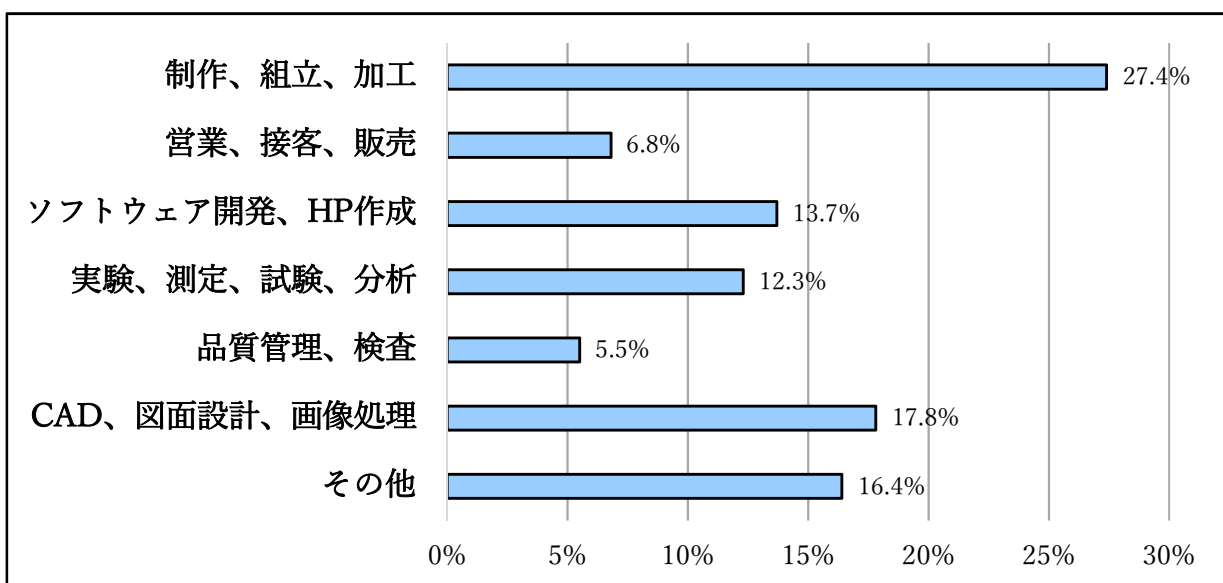


図3 実習内容の詳細(学生アンケート)

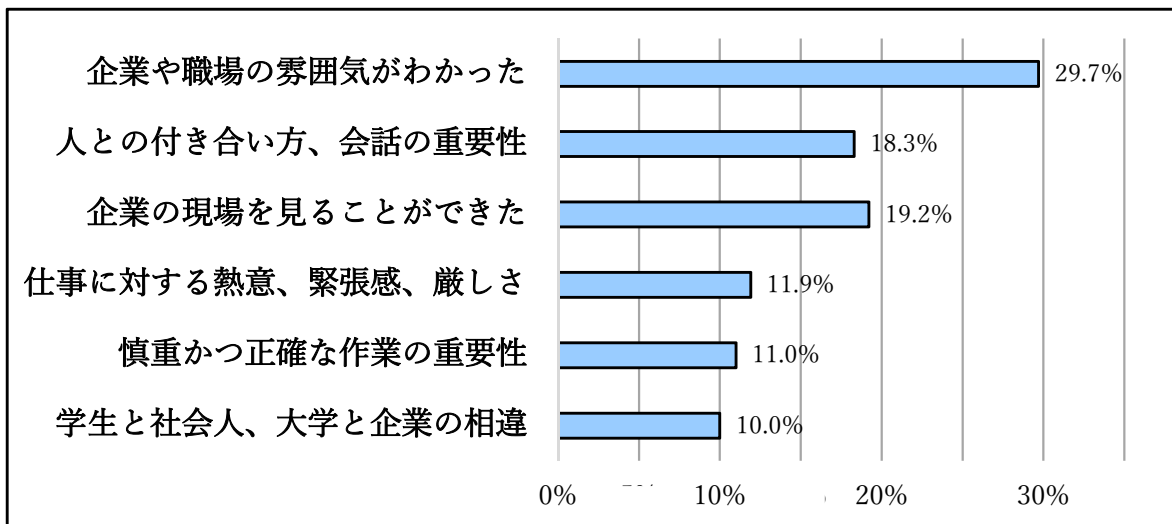


図4 実習によって得られた成果(学生アンケート)

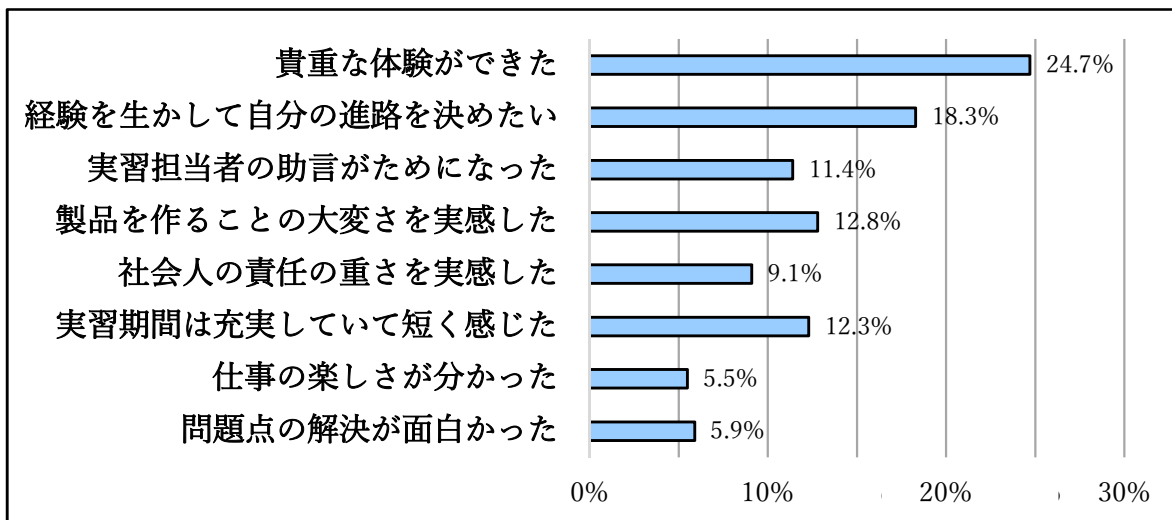


図5 実習に関する感想(学生アンケート)

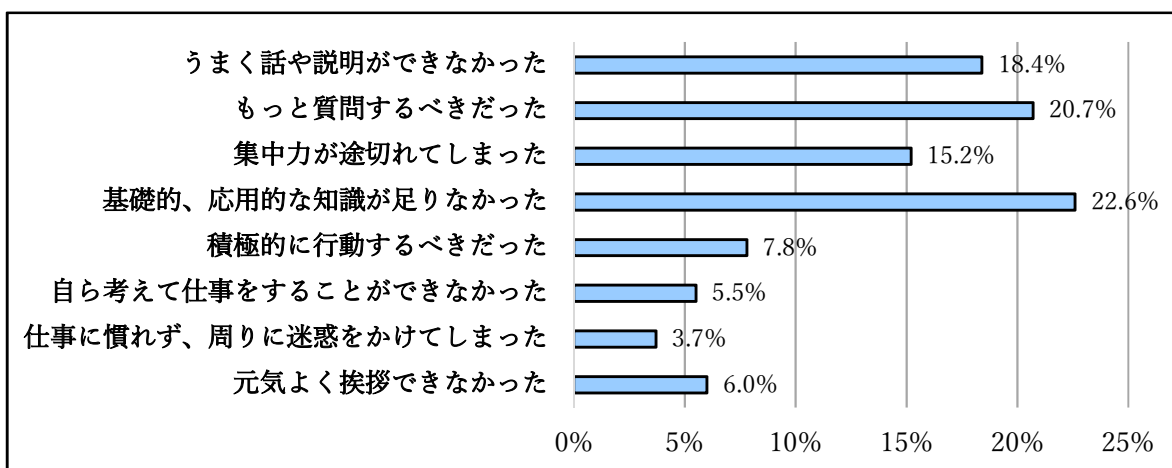


図6 実習に関する反省(学生アンケート)

表 6 インターンシップ実習生に対する個人評価（5段階評価、回答数 86）

評価項目	評点					平均点
	大変良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
	5	4	3	2	1	
勤務状況(欠勤、遅刻、早退などの状況)はいかがでしたか？	72 83.7%	10 11.6%	3 3.5%	0 0.0%	1 1.2%	4.8
勤務態度(言葉遣い、挨拶、返事などは)いかがでしたか？	51 59.3%	23 26.7%	8 9.3%	4 4.7%	0 0.0%	4.4
実習内容はよく理解できていましたか？	41 47.7%	34 39.5%	10 11.6%	1 1.2%	0 0.0%	4.3
仕事に対し、よく実行・行動・努力していましたか？	53 61.6%	19 22.1%	12 14.0%	2 2.3%	0 0.0%	4.4
仕事は正確で良い結果を出していましたか？	32 37.2%	34 39.5%	17 19.8%	3 3.5%	0 0.0%	4.1
創意工夫の姿勢は見られましたか？	35 40.7%	21 24.4%	24 27.9%	6 7.0%	0 0.0%	4.0
仕事に対する積極性はいかがでしたか？	47 54.7%	22 25.6%	11 12.8%	6 7.0%	0 0.0%	4.3
責任感を持てていましたか？	42 48.8%	26 30.2%	18 20.9%	0 0.0%	0 0.0%	4.3
協調性はいかがでしたか？	43 50.0%	25 29.1%	14 16.3%	4 4.7%	0 0.0%	4.2
全体評価	47 54.7%	30 34.9%	8 9.3%	1 1.2%	0 0.0%	4.4

8. インターンシップ実習の評価（受入企業、参加学生、訪問教員）

この章では、インターンシップ終了後、実施状況を把握するため、受入企業、参加学生および訪問教員に対してアンケートを行った結果について述べる。

8.1 受入企業による実習生の評価

単位認定のため、学生の実習行状の評価を行う必要がある。そのため、受入企業の実習担当者に実習生一人ひとりについて評価を依頼した。評価項目は10項目用意し、それぞれ5段階で評価するものである。その結果(回答数56)を表6に示す。

各項目において、「大変良い」の評価を受けた学生の割合は前年度と同程度となった(昨年度の「大変良い」の評価割合は、「勤務状況」:76.7%、「勤務態度」:55.3%、「実習内容理解」:44.7%、「実行・行動・努力」:51.5%、「正確さ」:38.8%、「創意工夫」:29.1%、「積極性」:37.9%、「責任感」:48.5%、「協調性」:53.4%、「全体評価」:50.5%)。昨年度と比較して、「大変良い」の評価は増加傾向にあるものの、「やや良い」の評価はおおむね減少した。特段、「創意工夫」や「積極性」に対する評価が良くなった印象である。

一方で、「やや劣る」、「劣る」の評価を受けた学生の割合は、「責任感」を除き、全体的に増加した(昨年度の「やや劣る」と「劣る」の評価割合は、「勤務状況」:1.0%、「勤務態度」:1.0%、「実習内容理解」:0.0%、「実行・行動・努力」:0.0%、「正確さ」:0.0%、「創意工

夫」:2.9%、「積極性」:2.9%、「責任感」:1.0%、「協調性」:3.9%、「全体評価」:1.0%)。「創意工夫」や「積極性」で高い評価を受けた学生が多い一方で、低い評価を受けた学生も4.1%増えた結果となった。

表7に、インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見として述べられたものを示す。良いコメントを受ける学生の多くは、「真面目に取り組めた」、「意欲が高い」などの言葉が多い印象である。一方で、問題点の指摘として、「積極性に欠ける」、「大人しい」、「コミュニケーションが不慣れ」といった、前年度にも見られた課題が指摘されていた。これは、学生自身の性格によるものと思われる。これを機に学生には、社会人としての振舞いについて自身との違いを認識し、考え、改める様に努力してほしいと願うとともに、インターンシップの事前説明での周知を図る必要があると考えている。

8.2 受入企業によるインターンシップの評価

受入企業担当者によるインターンシップに関する評価結果を図7に示す。評価は、「実習内容」、「実習態度」、「実習全般」の3項目を4段階で評価するものである。いずれの項目においても、「適切」あるいは「ほぼ適切」の評価が96%以上であった。

昨年度と今年度の結果を比較すると、「実習態度」については大きな違いは見られないが、「実習内容」と「実習全般」については、「ほぼ適切」が減少し、その分が「適切」の評価へと移行している。また、「やや不適切」という評価については、「実習態度」と「実習全般」では0.0%へと減少したが、「実習内容」は前年度とほぼ同じで

あった。なお、「不適切」という評価は前年度同様に、0.0%であった。これは、事前研修やインターンシップへの参加が相応しくない学生の受入を見合わせる等の措置の効果もあったと推測されるが、受入企業側の努力も大いにあったと推察される。

8.3 学生によるインターンシップの評価

学生自身によるインターンシップに対する評価を図8に示す。評価は、「実習内容」、「実習環境」、「指導内容」の3項目を4段階で評価するものである。

昨年度と今年度の結果を比較すると、昨年度の「適切」という評価から「やや適切」の評価へと全体的に下がった点が印象的である。また、「やや不適切」という評価も昨年度と比べて増加したが、「実習内容」や「実習環境」が「不適切」と述べている学生が出た。この点について、詳しく調査をした上で改善する必要がある。

例年11月に学内で開催される参加学生によるインターンシップ報告会では、今年度も短い期間でもさまざまな体験を得たことが報告された。また、そのことにより学生の成長した様子が見られたのは喜ばしいことであった。しかし、報告会における学生のプレゼンテーションは、指導してほしいとの声もあり、改善する必要があると感じている。

8.4 実習先訪問担当教員の報告

平成30年8月16日～9月20日の期間、本学教員が47箇所の実習先企業・事業体を訪問し、インターンシップ先への御礼の挨拶と本学学生の実習状況を確認した。具体的には、各企業のインターンシップ学生の受入担当者または企業側代表者、および可能な場合には実習学生本人と面談し、仕事の内容、状況、学生への対応などの聞き取り、観察を行った。その上で、教員にはその様子をアンケートの形で報告することを求めており、インターン

シップ先での学生の実習への取り組み、意欲、そして、受入企業の実習に関する評価について回答した。その結果を図9から図11に示す。

図9は、学生の実習への取り組みに対する教員の評価である。教員は、97.6%が「非常に真面目」あるいは「やや真面目」と評価した。これは、昨年度の評価と比べ、やや向上した。

図10は、実習生の意欲に対しての訪問教員の評価を示している。教員は、97.6%が「非常に意欲的」あるいは「やや意欲的」と評価しており、こちらも昨年度と比べ、やや向上しているが、「非常に意欲的」の割合は1.0%減少した。一方で、「普通」という評価も5.1%減少し、「やや意欲的」が6.0%増加しているため、この結果について特段問題視する必要はないと考えられる。

実習生の取り組みと意欲については、昨年度と同程度評価しており、次年度以降も向上あるいは維持していくことが望ましい。

図11は、インターンシップ先企業の実習内容に関して訪問教員が4つの問に対して回答した結果を示している。ここでいう4つの問は、(i)実習内容は教育的か、(ii)実習プログラムは充実していたか、(iii)指導状況は良好か、(iv)指導困難な様子はなかったか、である。全般的にポジティブな評価(「そう思う」と「ややそう思う」)が85.4%～92.7%と高いが、昨年度と比べると減少した印象であった。この結果では、第三者である教員から見ても、学生にとって良い経験になったものと推察される。

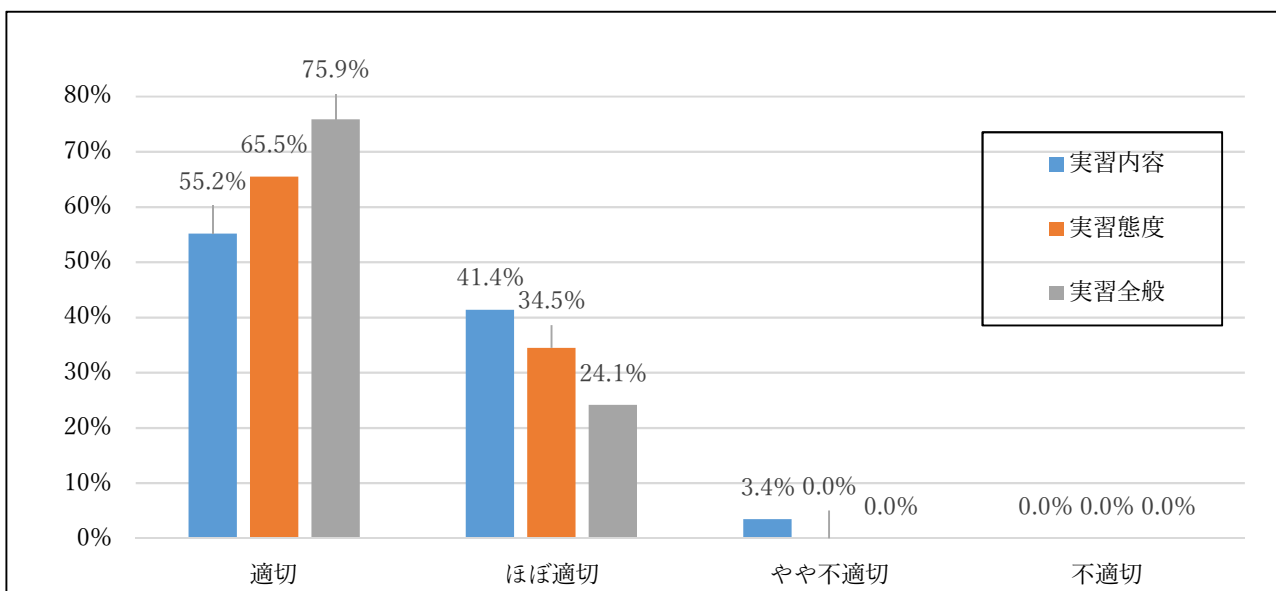


図7 受入企業担当者によるインターンシップへの評価

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

＜好評の所見＞

- ・大変お疲れ様でした。今回携わっていただいた都市計画の仕事は、数十年先の将来を見据えて、今のまちづくりを考えるというものであり、なかなか想像しにくいものがあったのではないかと思います。今回はその実現に向けて、特に規制にかかわる部分に触れていただきましたが、専攻する建築の部門でも、やはり規制を伴います。今回、与えられた仕事にしっかりと向き合って、理解しようと取り組まれている姿勢が十分に伝わりました。どんな仕事もそうだと思いますが、しっかりと自分が携わっていく仕事に対して、よく勉強し、理解し、その中でNさんの独自性を見つけていけるよう、持ち前の明るさでこれからも頑張ってください。お疲れ様でした。
- ・CADは使ったことがあるということでしたので、CAD演習はすんなりとこなせていました。また、CADを知らない学生に対しても親切に教えている姿を確認することができました。
- ・5日間という短い間でしたが、その中で成長していく姿を見させていただきました。
- ・ご自身の興味のある業界について積極的に質問する様子に大変良い印象を持ちました。ご参加いただき、ありがとうございました。
- ・工夫しながら業務に取り組んでくれていました。今回は2名のご参加でしたので、お互い情報・意見交換をしながら切磋琢磨されていたのが印象的でした。ご参加いただき、ありがとうございました。
- ・人の話をよく聞き、分からないことは積極的に質問し理解しようとする姿勢が見られ、非常に素直で真面目な印象でした。
- ・包装工程での実習ではありましたが、実際の作業にも携わっていただき作業も無難にこなしてくれました。短い期間であった為、駆け足で全行程を説明しましたが、いかがだったでしょうか？
- ・実習期間中は、真面目に取り組む姿勢が見られました。ありがとうございました。
- ・実習内容についてはよく理解していたと思う。
- ・知らない環境の中でも、臆することなく話が出来た。
- ・短時間で打ち解けるコミュニケーション力があつた。
- ・弊社で準備しておりましたマイコン動作体験につきましては、基礎知識がないとお申し出がございましたので、少しカリキュラムを変更して私どもの実務に近い部品選定作業を主に行って頂きました。
- ・与えられたカリキュラムに真面目に取り組んでおられ、仕事の結果評価欄では「普通」とさせて頂きましたが、ご自身が納得するまでしっかりと調査を進めておられた事が印象的でした。また、弊社1年目の社員と同じ作業を行って頂きましたがコミュニケーションもしっかり取られており円滑に進めることが出来ていました。
- ・ありがちな「判らなくてもそのまま進めてしまう」様な姿勢がなく、このインターンシップでの成果は僅かの事だったと思いますが、是非今後もその様な取り組みをして頂ければと思います。今後のご活躍を期待しております。
- ・どんな事にも嫌な顔をせず取り組んで頂きました。大変助かりました。
- ・何事にも真剣に取り組んで頂きました。
- ・業務多忙でこちらからの指示が不十分でありましたが、やる気をもって業務に取り組んでいただきました。
- ・いくつかのプログラムを体験していただきましたが、どの課題にも積極的に取り組んでくれていました。
- ・講師の指示を熱心に聞き、卒なくこなす様子からは集中力の高さがうかがえました。また、他者とも積極的に話すなどコミュニケーション能力の高さが好印象でした。
- ・インターンシップのプログラムに対し、とても積極的に取り組んでくれていました。
- ・初めての環境・企業内での研修ということで、言葉を選びながら話をしてくれていたようですが社員の問いかけには一番に返答するなど、コミュニケーション力が高い印象を受けました。
- ・この度のインターンシップ経験が、これからの就職活動や企業選択時に少しでもお役に立てれば幸いです。
- ・弊社の業務は、学校で学ばれているのとは異なる分野でしたが、とても熱心に興味を持ってプログラムに取り組んでくれていました。言葉数は多くないですが、すべての事に関し『良く考えている』という好印象を受けました。また、他者がわからない時にはさりげなくアドバイスをするなど、優しさが垣間見える場面もありました。
- ・より深く理解しようとする意欲と、より高いレベルの成果を出そうとする意識の高さが伺えました。
- ・目的意識を持って課題に取り組んだ姿勢が伺えました。
- ・暑い中メイク研修をやってもらいましたが不満そうな顔を一切せずやってくれました。
- ・フロント研修で作っていただいたポップも大変好評です。
- ・ハードウェア(電子回路)に関する経験不足からか、当初はやや理解が追いつかない部分が見られましたが、日を追うごとに技術を吸収していく様子が見られました。技術習得に関しては非常に積極的かつ貪欲に取り組んでいたと感じます。

- ・全体を通して、自己の技術向上、グループ成果への貢献など、多くの良い結果を残せたのではないかと思います。挨拶、指導を受ける態度については、社会人になっても通じる十分な行動がとれていたと思います。指導されるという機会の中で疑問を持ち質問する行動をとれるとより良いと思います。
- ・実習期間中、身内に不幸があり、大変な思いをしたにも拘らず、そのことを担当の従業員へ報告し、休みの相談ができていました。社会人としては当たり前の行動ですが、それを学生のうちからできていて感心しました。
- ・真面目にメモを取りながら一生懸命に説明を聞いている姿が印象的です。よくわからないことも必死に理解しようとしていました。毎日、挨拶もしっかりとじていて社員への影響も良かったです。
- ・非常に高い志を持った学生で私達も感心し勉強になりました。ありがとうございました。
- ・非常に積極性のある学生で、自分なりに考え、工夫しながら作業をする姿勢に関心しました。
- ・研修に対して非常に積極的な行動を取っていました。
- ・特に現場での施工管理職の研修は、主体的に行動ができていました。
- ・真面目に課題に取り組んでいました。自分の短所を克服しようという姿勢が見られ、好感を持ちました。まだ2年生なので、多くのインターンシップに取り組んでもらえればと思います。
- ・同時に参加した学生が後輩（2回生）であった事もあり、積極的に課題を纏めようと真剣に取り組んでおりました。一生懸命な様子に好感を持てる学生でした。
- ・非常に飲み込みが良く、頑張っていました。
- ・真面目に取り組み、飲み込みも早く頑張っていました。
- ・事前打ち合わせの段階から非常に礼儀正しく、受け答えもはっきりとしており、好感が持てました。弊社の説明に対しても真剣に耳を傾け、学習意欲の高さが伺われました。インターンシップ中は、様々なことを吸収しようとする姿勢が見られ、業種、職種に向き合い、就職することへの意識の高さが見られました。実習中も終始興味深そうに物事に当たっており、自己の中で消化し身につけることのできる能力があることが垣間見えました。
- ・生産技術全般の説明と体験をさせていただきましたが、特に工場内での実習や機械に興味を深く持つ様子が見られました。弊社社員の説明にも熱心に耳を傾け、企業研究への情熱、学習意欲の高さが伺われました。また、研修中は座学中にもう一人の実習生との議論の場もありましたが、自分の意見をしっかりと持ち受け応えることのできる姿勢が見られました。弊社担当者からは、弊社業務説明への吸収力と理解力の高さが伺え、社員の刺激にもつながったとの意見もありました。
- ・建設業を体験しようとする意欲が伝わってきて、大変良かったです。本人も学校では学べない事を体験できたと喜んで帰って頂きました。建設業を将来の選択肢の1つにしてくれたら嬉しいです。
- ・積極的に業務に携わろうという姿勢が素晴らしかったです。話を聞くと、大企業より地元の建築会社に勤務、地域に根差した仕事をしたいという事でしたので、将来、是非掛川市で建設の仕事に携わっていただきたいと思います。今回、日程の変更で建築工事現場の都合上、十分に携わらせてあげることが出来なかったのが、こちらとしては大変申し訳なく思っています。
- ・勤務態度も誠実で、グループメンバーと積極的にコミュニケーションを取り、課題に取り組んでいた。空いた時間にも別の作業を行うなど、大変積極的な姿勢が見られ、2年生という専門的な知識もない中で、しっかりと課題に取り組んでいた事は評価できる。今後も更に大学で専門知識を深めていただきたい。
- ・勤務態度も誠実で、グループメンバーと積極的にコミュニケーションを取り、課題に取り組んでいた。慣れない作業の中で単純作業には若干消極的な場面もあったが、後半になると積極性が出てきた。めっきだけでなく、電気化学及び表面処理に亘る幅広い分野に興味を持って、大学で専門知識を深めていただきたい。
- ・実習姿勢はとて良く、課題に対する作業を完了することが出来ました。また資格の相談を持ちかけたりするなど、設計業務への意欲的な面も感じられました。
- ・インターンシップ開始時には依頼することのほとんどが初めて体験することで、とまどいがあったようです。しかし日を追うごとに本来の能力を発揮し、こちらの想定以上に職務をこなしていききました。また応用力もこちらが考えていた以上のものがあり、じゅうぶんシステム開発業務をこなしていくことが出来ると判断しました。なお本インターンシップでは他大学の学生と共に受講しましたが、リーダーシップを発揮しコミュニケーションを取り円滑に進めることができていました。
- ・今回インターン生のお二人には、簡単な iPhone アプリの開発を通してソフトの開発業務を体験していただきましたが、こちらが用意した仕様に対してスムーズに実装できていましたし、自分なりに追加の仕様を考えて実装方法を調べながら形にしていました。Objective-C というおそらく初めてみる言語だったと思いますが、うまく適応していたので、プログラミングに関する基礎知識が身につけているんだなと感じました。もしかしたら簡単な内容だったかもしれませんが、真面目に取り組んでいただけで助かりました。

- ・弊社のパートさんとも積極的にコミュニケーションを取り、自主性が見受けられました。一つ一つの作業に興味を持ちながら積極的に取り組んでいました。勤務態度は大変良かったです。
- ・理解力に優れ、早い段階でまとめることができ、会社での発表会も上手く出来ました。
- ・積極的に質問をしていただきました。とても、やる気を感じました。

<問題点の指摘があった所見>

- ・性格は明るく良いが、まだ学生気分が抜けていないと感じた。作業の中で質問等がなく、積極性に欠ける一面も見受けられました。
- ・遠方からインターン参加大変うれしいのですが、当日の通勤手段など事前に検討すべき項目について少し考慮が足りなかったかと思われます。インターン内容については作業の中で質問等がなく、積極性に欠ける一面も見受けられました。
- ・緊張のせいなのか少し大人しかった印象が残った。
- ・今回は実習ということもありあまり表現できなかったかもしれませんが、もっと冒険心を持つとさらに良いのではないのでしょうか。
- ・他の2名との協調性が良くなかったり、3名で会話して決めた方針と異なる結果であったり、自身に閉じた作業を行っていた印象が強いです。また、勤務中に、体調不良であるのか寝不足であるのかは不明ですが、机にうつ伏せになっている状態があったりし、印象としては良くない場面がありました。自我が強いと感じる場面もあり、他の2名との協調性については、今後の改善点と感じました。
- ・本人の自覚もあると思いますが、人とのコミュニケーションが少し不慣れな面を感じました。
- ・緊張や遠慮があったとは思いますが、こういった場では最初から積極性を出した方が良いと感じました。
- ・officialな場面での姿勢や話し方を少し気遣った方が良いと感じる場面が、少々ありました。
- ・業務を行っていく中で、行き詰まる事があったようですが、すぐに質問とかなかった様です。
- ・意思の表現・反応が希薄な場が多々見られた。
- ・問いかけに対しての反応が薄い場面が多く感じた。まだ今後の活動はより積極的に取り組んで頂きたい。
- ・CAD等の実習に関しては理解も早く、能力的にも高いが、コミュニケーション能力の向上が今後の課題。
- ・コミュニケーション（報連相、協調性）能力を向上させられると、より良いと思いました。
- ・実習生からの質問があまりなく、こちらから聞くと色々質問が出てきたので、もう少し積極的になっても良いと思いました。

9. 平成30年度インターンシップのまとめ

静岡理科大学では、平成12年度以降選択科目としてインターンシップを実施してきた。就職活動を開始する前の学生が企業や官公庁におけるインターンシップ体験を通じて、業務の専門性を経験し、一般常識と教養の重要性を認識するとともに、業務の現場でのコミュニケーションの大切さを自ら体験する機会を提供する役割を本インターンシップは担っている。

9.1 インターンシップ事前教育

インターンシップに参加する前の事前教育として、本年度も全3回の事前研修を実施し、インターンシップの概要や心構え、マナーについての教育を実施した。全学での事前研修への参加者は第1回目が255名、第2回目が114名、第3回目が93名であった。第1回目の事前研修における2年次の学生の割合は約33.7%であり、昨年度の約14.7%よりも増加した。この結果から、早期に就職活動に興味をもつ学生が増えていると考えられる。一方で、事前研修の回を重ねるにつれ、2年次の参加者は減少し、第2回目は17.5%、第3回目は21.5%となった。本年度はインターンシップへの参加学生102名中の3名のみが2年次の学生であった。今後は、2年次の学生のインターンシップへの興味をつなぎとめる仕組みが求められる。

9.2 インターンシップ受入れ企業数について

今年度のインターンシップについては、受入れ企業は計136社（昨年度114社）であった。募集学生数は310名（昨年度230名）であった。そのうち、86名の学生が

インターンシップに参加した（昨年度は102名）。昨年度に比べ、参加学生は大きく減少したが、受入れ企業数は昨年度と同程度であった。就職活動が売り手市場という現状を反映した結果である。実習先企業の大多数は静岡県西部・中部に所在するが、県外（愛知県）の企業も含まれる。インターンシップを通じて、静岡県内へ就職を希望する学生にとっては、県内で業務の体験が得られることは有利である。一方で、東京周辺への就職を望む学生にとっては、希望する業種のインターンシップが見つけられない可能性は捨てられない。

9.3 インターンシップの評価

本学学生は業務の現場で挨拶ができ、素直でおとなしいが、業務へしっかりと取り組む姿勢が評価されており、素直で成長が見込まれる点で好評を得る者も見られた。インターンシップ実習生に対する個人別評価（表6）によると、全体評価では、大変よい又は良いとの回答は全体の約92%であり、実習生への評価は高い。本学では、1年次からキャリア教育のための科目「キャリア開発講座1」等を開講し、ビジネスマナーを含むキャリア教育に取り組んできたことがこのような評価を得る一因と考えられる。

一方で、受入れ企業の所見によると、業務についてより積極的に提案を行う主体性が望まれている。特に、業務においては一人で仕事を完結することは稀であり、多様な考えを持つ多数の同僚・上司・部下と連携をとりながら業務目標を達成することが求められる。したがって、今後の教育においては、PBL(Project Based

Learning)やアクティブラーニングを取り入れたグループワークを活用することが望まれる。そして、グループによる協調作業によって、互いにアイデアを出し合って共有し、質疑応答や議論によって切磋琢磨し、一つの成果物を作り上げる体験ができるようにすることが必要である。主体性を育むことは、単一の科目を履修するだけでは不可能であるため、大学での教育活動をよりグループワークベースにシフトしていくことが求められる。

実習によって得られた成果についての学生からの回答(図4)によると、職場での業務にまつわる人間関係や業務経験、職場での責任の大切さについて、大学の講義や演習では得られない体験が得られたものと推測できる。これは本インターンシップの意図と一致している。

一般的に、就職活動開始時に企業研究を行うにあたり、学生が自分自身でどのような職種に興味があるのかを見つめ直す必要が出てくる。インターンシップを経験しておくことで、自分が職場で仕事に就き、同僚や上司と共に業務を行っている姿をイメージしやすくなることが期待できる。実習に関する感想(図5)では、インターンシップの経験が貴重であったとの意見が多い。更に、今後の進路へ経験を生かしたいとの前向きな意見も見られる。今回のインターンシップ経験は自己分析のきっかけとなった学生も多いと推察される。

実習に関する反省(図6)では、基礎知識の不足と職場でのコミュニケーションの大切さを自覚する意見が得られた。この結果には、静かにインターンシップの業務に取り組みながらも、業務内容を完遂させたいというインターンシップ参加者の責任感が現れている。また、インターンシップ受入れ企業へ訪問した教員による回答(図9及び図10)からは、実習生が意欲的で真摯に業務についていたとの結果が読み取れる。これは、インターンシップ希望者と受入れ企業のマッチングが適切に行われた結果である。

9.4 インターンシップ報告会

本年度も、昨年度と同様に11月6日にインターンシップ報告会を開催した。報告会では、機械工学科・電気電子工学科・情報デザイン学科から各1名のインターンシップ参加者が、参加報告を行った。併せて、受入れ企業の担当者からも実施報告が行われた。インターンシップ報告会は企業・官公庁のインターンシップ担当者と大学及び学生の間で知識を共有し意見を交換する場としてなくてはならないものである。インターンシップを始めとする連携活動を通じて、企業と一緒に学生を育てる活動を継続する必要がある。

9.5 その他

最近では、短期間で実施するインターンシップも見られ、ワンデーインターンと呼ばれる、1日で完結する形式のインターンシップも活発となってきている。従来型のインターンシップでは、期間の長さが原因で、遠隔地の企業で実施する際に、受入れ先の企業と実習する学生の双方について負担が大きい。実際に、現在の本学におけるインターンシップでは、受入れ企業のほとんどが県内企業となっている。今後は本学のインターンシップにおいても、ワンデーインターンへ参加を促すなど、インターンシップの捉え方自体を修正していく必要がある。特に、関東での就職を希望する学生には、期間の短いインターンシップは考慮に値する。本学が新幹線沿線地域に位置しているという強みを生かすことができるからである。

謝辞

インターンシップを実施するにあたり、多忙な業務の中、学生の受入れにご尽力いただいた各受入れ企業・官公庁の皆様へ感謝いたします。また、報告会でご講演いただきました皆様にも御礼申し上げます。

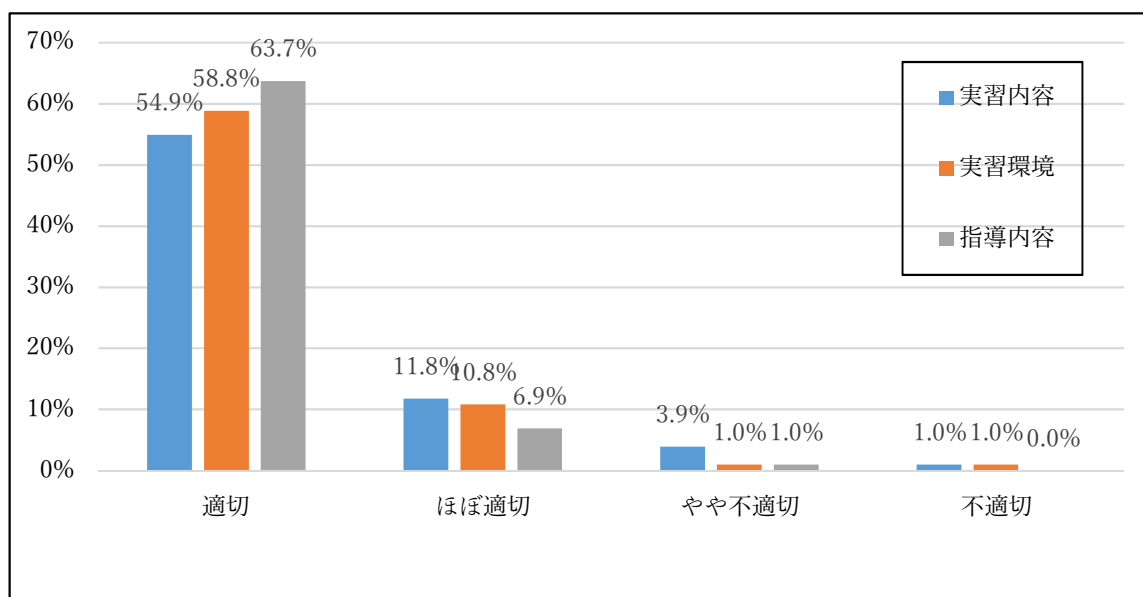


図8 参加学生による実習内容、環境、指導内容への満足度

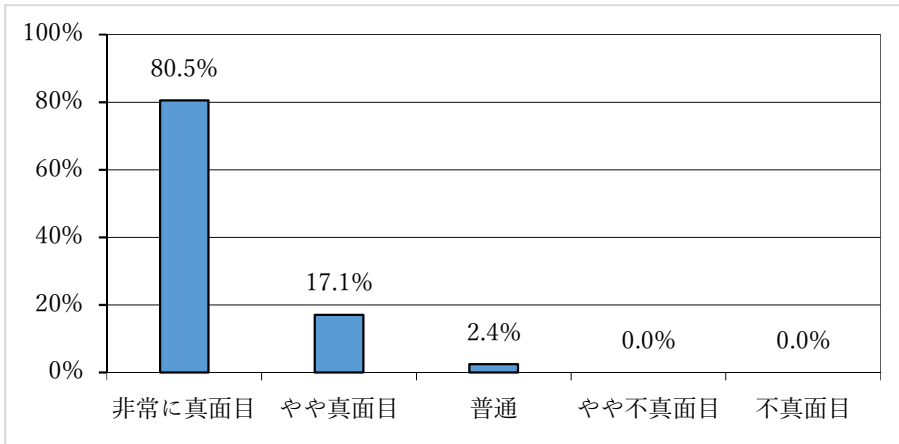


図 9 実習学生の取り組みに対する訪問教員の評価

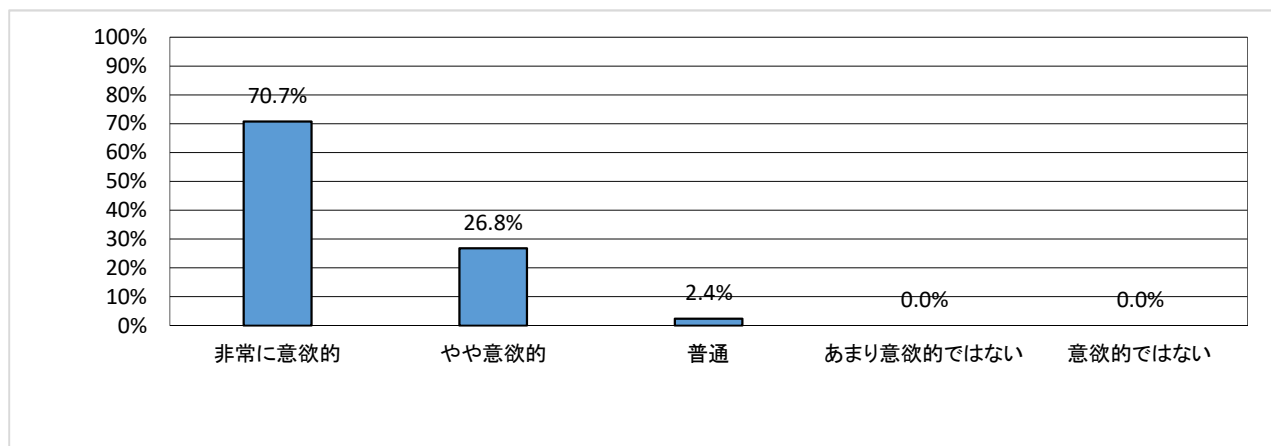


図 10 実習生の意欲に対する訪問教員の評価

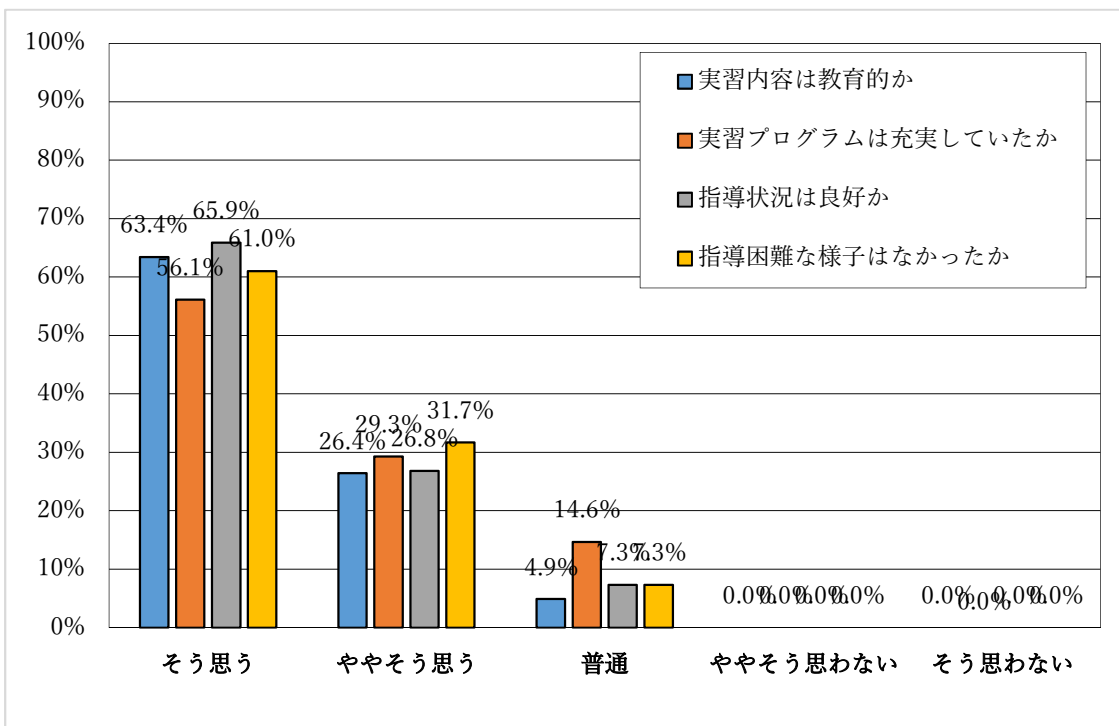


図 11 訪問教員の受入事業所への評価と要望

参考文献

- 1) 文部省編, インターンシップ・ガイドブック, インターンシップの円滑な導入と運用のために, 1998.
- 2) 丹羽昌平 他, インターンシップで学生は何を得たか?—平成14年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第11巻, 2003, 281-303.
- 3) 丹羽昌平 他, インターンシップ実施5年間のまとめとこれからの展望—平成15年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第12巻, 2004, 299-320.
- 4) 丹羽昌平 他, 平成16年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—, 静岡理工科大学紀要, 第13巻, 2005, 95-104.
- 5) 丹羽昌平 他, 地域社会との連携による実習体験教育, 工学教育, 第53巻第4号, 2005, 23-29.
- 6) 惣田昱夫 他, 平成17年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—, 静岡理工科大学紀要, 第14巻, 2006, 163-174.
- 7) 富田寿人 他, 平成18年度インターンシップ実施報告—キャリア教育メイン・プログラムを目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第15巻, 2007, 127-139.
- 8) 富田寿人 他, 平成19年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第16巻, 2008, 117-129.
- 9) 富田寿人 他, 平成20年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第17巻, 2009, 163-174.
- 10) 山庄司志朗 他, 平成21年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第18巻, 2010, 145-155.
- 11) 山庄司志朗 他, 平成22年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 119-131.
- 12) 石田隆弘 他, 平成23年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 107-118.
- 13) 石田隆弘 他, 平成24年度インターンシップ実施報告—一貫したキャリア教育を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第21巻, 2013, 153-166.
- 14) 奥村哲 他, 平成25年度インターンシップ実施報告—より多くの学生のためのキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第22巻, 2014, 105-119.
- 15) 奥村哲 他, 平成26年度インターンシップ実施報告—より多くの学生のためのキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第23巻, 2015, 163-177.
- 16) 幸谷智紀 他, 平成27年度インターンシップ実施報告—質の高いキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第24巻, 2016, 110-125.
- 17) 幸谷智紀 他, 平成28年度インターンシップ実施報告—質の高いキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第24巻, 2017, 151-168.
- 18) 宮地竜郎 他, 平成29年度インターンシップ実施報告—質の高いキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第26巻, 2018, 101-116.